ット国境警察隊の隊員二人が惨事に巻き込まれていた。一〇日夜、インド隊は暴風雪のなかを登頂したが、下山途中で雪に閉じ込められた。

うち一人を、登頂途中の福岡チョモランマ登山隊が発見。同隊はロープにからまっていた二人を救出し、飲み物を与えた後、再び頂上をめざしたという。インド登山財団のある幹部は、「なぜ福岡隊が彼らを救出しなかったか、理解しがたい」と語っている。〈福岡隊側は、批判は事実無根だと主張している。〉

「心配しなくていいよ」

一一日午前一〇時、南壁ではシェルパの一団がフィッシャーと高を発見している。共に瀕死の状態だったが、高は酸素を与えられていくらか元気を取り戻した。一方のフィッシャーは、ほとんど反応がなかった。キャンプへ運べるのは一人だけだ。となると、少しでも元気なほうを選ぶことになる。

こうしてフィッシャーが残された。ホールの待機していたはるか上方では、依然として吹雪が荒れ狂っていた。ホールはハンセンの遺体とともに、むき出しの岩の上に横たわっていた。二人のシェルパがホールの救助に向かったが、残り二〇〇㍍のところで天候が悪化、引き返さざるをえなかった。

ベースキャンプと無線で連絡をとりあえず、救出はされなかった

5月11日午後:シェルパたちが救助に来られないことを無線で知らされたホールは、ニュージーランドにいる妻に電話をつないでもらい、最後の会話を交わした。死亡したとみら

登山家を魅了する魔の最高峰

なぜ人はエベレストに登るのか。「そこに山があるからだ」の名言を残したのは、イギリスの登山家ジョージ・マロリー。1924年、彼は頂上を極めようとしてかなわず、消息を絶った。今月10日、マロリーと同じ精神で世界最高峰をめざした登山家のうち8人が突然の天候悪化に見舞われ、命を落とした。勇敢な救助隊も動きがとれないほどの暴風が、現場には吹き荒れていた

悲劇はこうして起こった

5月10日:5つの遠征隊に所属する登山家31人が約1カ月かけてエベレストの登頂に成功。スコット・フィッシャー率いるマウンテン・マッドネス隊にはサンディ・ヒル・ピットマンも参加していた。隊員らが

第2キャンプでのフィッシャー隊

下山しはじめると、突然の暴風で気温が零下40度まで下がった。フィッシャーは遅れぎみの隊員を助けるため頂上付近に残り、ニュージーランド登山隊のリーダー、ロブ・ホールも、アメリカ人のダグ・ハンセンを助けるため彼のそばにとどまった。だがハンセンはその夜、ホールのかたわらで息を引き取る。深夜までに第4キャンプに戻れた隊員はわずか数人だった

5月11日朝:救助隊はホールに近づこうとしたが、強風で彼のいる地点までたどり着けない。その約300メートル下方では、フィッシャーと台北登山隊のリーダー、高銘和が発見される。救助隊は高のほうが助かる可能性ありと判断、第4キャンプへ連れ帰った。難波康子とアメリカ人のシーボーン・ウェザーズも発見されたがすでに死

NICHOLAS DEVORE—TONY STONE